

コロナ影響で利用増加 三笠の北海 道中央霊園 遺族のニーズに対応

【三笠】北海道中央霊園Ⅱ市内大里Ⅱが行っている、全国無料の「送骨サービス」と「代行納骨サービス」の利用が増えている。新型コロナウイルスの感染拡大で、納骨したくても霊園に行けない人が増えているのが背景。前年の2倍のペースで伸びており、同霊園では新型コロナウイルス終息まで続くとしている。

【末永直樹】

両サービスとも2014年から開始。送骨は遺骨を宅配便で霊園に送るもので、代行納骨は遺族の代わりに霊園のスタッフが埋葬に立ち合い墓に納骨す

る。少子高齢化や多忙、経済的な事情などで遺骨を持参するのが難しい人に対応するのが目的。両サービスとも、無料は全国でも珍しいという。

新型コロナウイルスの感染拡大で不要不急の外出自粛が求められる中、両サービスとも3、4月の利用は前年同月比で2倍以上、送骨が月30件以上、納骨代行も

月40件以上となっている。永代供養付きで、一定の区画に遺骨を埋葬する樹木葬や、一つのお墓に多くの人の遺骨を埋葬する合同墓の利用者が目立つという。

送骨と代行納骨を利用した岩見沢の60代女性「四十九日での納骨をあきらめていたが、無事に埋葬できて良かった。コロナ終息後に家族でお参りに行きたい」、代行納骨を利用した東京都の40代男性は「滝川に住む母が4月に亡くなった。北海道との往来が困難な中、本当にありがた」と語った。

5月も前年を上回るペースで申し込みが来ており、同霊園の武田寛理事長は「決して遺骨をないがしろにす

送骨、代行納骨サービス



「樹木葬での利用が多い」と話す武田理事長

るものではなく、少子高齢化などに対応するために導入したサービス。予期しなかった反応ですが、今後も感染リスクがあるため埋葬したくてもできないご遺族のニーズに応えたい」と話している。

送骨、代行納骨などに関する問い合わせはフリーダイヤル0120・39・4101へ。